

中国語の「定語」について

廖 金 球

A Participial Adjective in the Chinese Language

Jin Qiu LIAO

In this brief essay I intend to examine the definition, the means of expression, and relationship of meaning between participial adjectives and central words.

1. はじめに

現代中国語を文法からみると、主語（主語）、謂語（述語）、賓語（目的語）、補語（補語）、定語（連体修飾語）、状語（連用修飾語）などから構成される。それゆえに、中国語を正確に、上手に身につけるためにはこれらの文法上の構成をよく理解して、巧みに活用しなければならない。

この小論では、中国語の立場から、定語（連体修飾語）の定義、表示方式及び定語と中心語との意味関係について検討してみたい。

2. ここで提起した定語（連体修飾語）とは何であろうか。

定語は修飾語である。普通、定語は名詞あるいは動詞、形容詞（このときの動詞と形容詞が主語、目的語になる場合）の前に添えるものである。この場合における定語は語句を修飾したり限定したりすることができる。修飾される語句を「中心語」という。

限定とは何であろうか。これは中心語に表示される物事の範囲を小さくして、別の同類物事と区別しやすくすることである。

〈例〉：

1. 我的钢笔在桌子上。

（わたしのペンは机の上にある。）

〈所属を限定する〉

2. 芦原的福井工業大学校园很漂亮。

（芦原の福井工業大学のキャンパスはとてもきれいだ。）

〈場所を限定する〉

3. 今天的会议已经结束了。

（今日の会議はもう終わった。）

(時間を限定する)

4. 你看过这本小說吗?

(あなたはこの小説を読んだことがあるか。)

(範囲を限定する)

ここでいう修飾とは何であろうか。すなわち、それは限定する働きもあるけれども、その主な目的は物事の性質と状態を描くものである。

〈例〉：

1. 她長着一張苹果似的紅紅的臉。

(彼女はリンゴのような赤い顔をしている。)

(状態を描く)

2. 藍藍的天上漂浮着白雲。

(青い空には白い雲がただよっている。)

(状態を描く)

3. 科学需要老老实实在的態度。

(科学にはまじめな態度が必要である。)

(性質を描く)

4. 他的古怪的脾气令人討厭。

(彼のへんてこな気質は人に嫌られる。)

(性質を描く)

5. 夏天, 許許多多的人都去海水浴。

(夏には大勢の人が海水浴に行く。)

(数量を描く)

定語の形式が多いが、すべて限定と修飾の2つの面にはいられる。

定語に用いられる品詞には形容詞、数量詞、名詞、代名詞、動詞等の実詞のほか、また並列連語、補充連語等の連語も用いられる。

3. 定語の表示方式

1. 位置からみれば、普通、定語は中心語の前にある。

〈例〉：

一九三五年冬天的一个傍晚, 魯迅先生在預先約定的地点, 会見了一个陌生的女青年。

(1935年, 冬のある夕方, あらかじめ約束した場所で, 魯迅先生はある見知らない娘との会見をなされた。)

ここでは“一九三五年冬天”と“一个”は“傍晚”(夕方)の修飾語である。“預先約定”(あらかじめ約束した)は“地点”(場所)の修飾語である。また, “一个”(一人)“陌生”(見知らない)は“女青年”(娘)の定語である。これらの修飾語はみんな中心語の前に置いてある。

ところが、ごく少数の場合に、定語を強調するため、あるいは、センテンスの構造を明確にするために、定語は中心語の後に置くこともある。

〈例〉：

a. 妈妈給我買了一頂帽子，藍色的。

(おかあさんは帽子を一つ買ってくださった。それは青いものなの。)

b. 天空變成了淺藍色的，很淺很淺的……。

(空はうす青くなっていた。とってもうすく、うすく……。)

ここでは例の a の“藍色的”(青いものなの)は実は“帽子”の定語である。これを後において強調の意味が強くなった。例の b には中心語である“藍色”の前にもう“浅”という語があったが、この“浅”を強調するために、その後にもう“很浅很浅的”(とってもうすく、うすく)を添える。こうして、描写の働きをよく表わした。

2. 助詞“的”(de) からみれば

定語と中心語の間には“的”を使って繋ぐということがしばしばある。このときの“的”は定語の目じるしとみられる。

つぎは“的”の働きである。

a. 偏正関係を表わすこと。

(偏正とはその構成からみると、後の語は前の語に修飾あるいは限定される。後の語は中心語であり、“正”^{zhèng}と見られる。前の修飾語は“偏”^{piān}と見られる。

定語と中心語の間にならず“的”を使わねばならぬことではない。もし“的”を使ったら、そのセンテンスは偏正関係の連語になる。たとえば、“討論問題”(問題を討論する)は動賓連語である。“的”を添えると“討論的問題”(討論する問題)になり、これは“偏正関係の連語”になる。もう一つの例である。“机器开动”(機械が動く)は主述連語である。“的”を加えると、“机器的开动”(機械の動き)になる。これも偏正連語になる。

b. 定語を強調すること

定語と中心語の間にあるとき“的”があるかどうかによって意味が違ふことがある。“的”を使わないと、中心語がどのような性質をもっているか。定語は説明できる。“的”を使う場合は定語を強調する。たとえば、“先進国家”(先進国)は“どのような国か”だけ説明する。“的”を加えれば、“先進的国家”(先進的な国)になる。これは修飾語である定語を強調するのである。また、こういう例がある。“孩子脾气”はこどものような気質という意味である。“孩子的脾气”(こどもの気質)は定語を強調して、また、定語に所属性をもたせるようになる。“狐狸尾巴”と“狐狸的尾巴”は前者がおおかみの尾らしいとか、狐のような尾とかの意味を含んでいるらしい。後者が狐の尾だということをはっきり説明して、所属性の定語になる。

3. 各種類の品詞と連語からみれば、

各種類の品詞が定語となることができる。

a. 形容詞

形容詞が定語となるのはもっとも普通なのである。形容詞のはたらきは主に名詞を限定し、修飾する。

一般に一音の形容詞は“的”を添える必要がない。二音より成る形容詞には“的”を添えるものがあるし、添えないものもある。

〈例〉：

一音：新書（新しい本）、短頭髮（短かい髪）

紅围巾（赤いマフラー）

假古董（にせの骨董）

二音：痛快的人（竹を割ったような人）

美麗的城市（美しい都市）

晴朗的天空（晴れわたっている空）

美好的未來（すばらしい未来）

老實人（まじめな人）

優秀選手（すぐれた選手）

形容詞の重ね方式には“的”を添えなくてはならない。

〈例〉：

厚厚的牆（厚い壁）

暖呼呼的宿舍（あたたかい宿舎）

結結實實的人（丈夫な人）

干干淨淨的院子（きれいな庭）

b. 名 詞

名詞が定語となる場合，“的”を添えるものもあるし、添えないものもある。“的”を添えない場合、定語と中必語の間はわりあいに緊密して、安定な集団全体のような感じである。逆に、前後の両部分の構造に締りがなくて、それぞれ独立性が持たれるようである。また、定語と中心語の関係からみれば、一般に所属を表わすときには“的”をその後に添えなくてはならない。

〈例〉：

他的話引起了學生的興趣。

（あの人の話は学生たちの興味を引きおこした。）

祖國的資源非常豐富。

（祖国の資源は非常に豊富である。）

學習外語，語言環境是很重要的。

（外国語を勉強するには言語環境はとても大切なのである。）

品質や來源などを示すときには“的”を添える必要はない。

〈例〉：

木頭桌子（木製の机）

玻璃窗（ガラスの窓）

柏油马路（アスファルトの道路）

中国茶叶（中国のお茶）

C. 動 詞

動詞が定語となる場合、一般につきのような方式がある。

1. 自動詞が定語となるとき、その後についている名詞と動賓関係にならないとき、あるいは二音節よりなる動詞の中で、名詞の性質を兼ねているものは“的”を添える必要がなくて、直接に定語となることができる。

〈例〉：

独立運動（独立運動），休息時間（休み時間）

学习计划（学習計画），建筑材料（建筑材料）

2. 他動詞が定語となる場合、一般に“的”を添える。もし“的”を添えないと動賓関係の語句になるかもしれない。つぎは“的”を添える場合と、添えない場合とについて比べてみよう。

〈例〉：

- { 买的衣服（買ったきもの）
- { 买衣服（きものを買う）
- { 研究的问题（研究の問題）
- { 研究问题（問題を研究する）
- { 看的書（読む本）
- { 看書（本を読む）
- { 吃的车西（食べもの）
- { 吃车西（ものを食べる）

3. もし、動詞が動賓方式の複合語であれば、定語となるとき“的”を使わなくてもよい。

〈例〉：

出席人数（出席人数），注意事项（注意事項）

发言记录（発言記録），计划经济（計画経済）

d. 代名詞

人称代名詞が定語となる場合は一般に“的”をその後に添えなくてはならない。たとえば，“他的書”（かれの本），“我的書包”（私のかばん）などである。しかし、ただつぎの二種類の場合だけは“的”を添えない方が普通である。

1. 人称代名詞が定語となる場合にその中心語が家族，友人，所属する団体等，密切な関係にあるものを表わすとき。

〈例〉：

我妻子（ぼくの妻），你爸爸（きみのお父さん），他们学校（かれらの学校）

2. 中心語の前に指示代名詞がある場合には定語の人称代名詞の後には“的”を添えないのが普通である。

〈例〉：

我这衣服（私のこの着物）

他那几本书（かれのあの数冊の本）

さて、指示代名詞“这”（この）“那”（その）、疑問代名詞“什么”（なに）などは量詞とくみあわせてから“的”を添えないことができる。もし、指示を表わさないと所属を表わすとき、“的”を添えなくてはならない。

〈例〉：

这本书破了。（この本はやぶけた。）

这本书的皮儿破了。（この本の表紙はやぶけた。）

哪个孩子叫正雄？（どの子供を正雄と言うか。）

他是哪个的孩子？（かれはだれのこどもであろうか。）

e. 数量詞

数量詞が定語となる場合は“的”を添えない。

〈例〉：

三本书（三冊の本）、一把椅子（一脚の椅子）、两条狗（二匹の犬）、好些个工人（沢山の労働者）

さて、名詞は量詞として使って、全部の量を表わすときに“的”を添えることができる。

〈例〉：

一桌子的菜（テーブルにはおかずがいっぱいある。）

满屋子的小孩（部屋には子供がいっぱいいる。）

f. 各種類の連語が定語となることができる。この場合は“的”を添えなくてはならない。

〈並列連語の例〉：

1. 这是你与他的事，与我没关系。

（これはきみとかれとのことであって、ぼくとは関係がない。）

2. 这是又好又便宜的东西。

（これはよくてしかも安い品物である。）

〈主述連語の例〉：

これには拡大された主述連語を含む。主述連語が定語の位置にあるものを“定語節”と言う。

1. 当时的中国是一个被压迫的中国，是一个苦难沉重的中国。

（当時の中国は圧迫された中国であり、苦しみが深い中国であった。）

2. 小王成了演員的消息，很快传遍了学校。

（王さんが俳優になったニュースは大層早く学校にくまなく伝わった。）

〈動賓連語の例〉：

1. 这个学校认真学习的学生很多。

(この学校にはまじめに勉強している学生がたくさんいる。)

2. 攀登喜马拉雅山的登山運動員出發了。

(ヒマラヤ山をよじ登るアルピニストはもう出発した。)

〈補充連語の例〉：

1. 走進打扫得干干净净的教室，心情真舒畅。

(きれいに掃除した教室にはいると、気持ちが本当にいい。)

2. 跟你說得清清楚楚的事，怎么又說不知道了呢？

(はっきりと言ってあげたのに、どうして知らないと言っているのだろうか。)

〈偏正連語の例〉：

1. 这是一本已经看过的小說，还想再看一遍。

(これはもう読んでしまった小説であるが、またもう一遍読みたい。)

2. 他流露出极喜悦的心情。

(かれはきわめてよろこびの気持ちをよく現わしている。)

4. 定語と中心語との意義上の関係

定語は名詞を修飾したり、あるいは名詞の意味を限定する。こうして、その名詞の意味は一層はっきり、具体的に表現できる。定語と名詞とは意義で次のようないろいろな関係がある。

1. 限定性の定語の例：

所属を表わすもの：中国的首都（中国の首都），晚霞的颜色（夕焼けの色）

場合を表わすもの：日本的气候（日本の気候），这里的學生（ここの学生）

時間を表わすもの：去年的夏天（去年の夏）現在的工作（いまの仕事）

範囲を表わすもの：那件事情（その事柄）这种天气（このような天気）

数量を表わすもの：十个月（十ヶ月），兩架飞机（二機の飛行機）

2. 修飾性の定語の例：

性状を表わすもの：漂亮的衣服（きれいな着物），強健的身体（丈夫な体）

品質を表わすもの：綢布連衣裙（きぬのワンピース），竹椅子（竹製の椅子）

5. まとめ

1. 定義義

定語は主語と目的語を修飾したり、あるいは限定するもので、“だれの”，“どのような”，“いくら”のような問題を答えるものである。

2. 定語の表示方式

- a. 位置：普通、定語は前、中心語が後においてある。センテンスを強調したり、あるいは緊密したりするために定語のある部分を中心語の後ろにおくことができる。たとえば，“我买了一本書，日文的”。（私は本を買った。日本語の本なの。）

b. 定語となる品詞と連語

(名詞) 魯迅的 (魯迅の)	}	塑像 (塑像)
(代名詞) 他的 (かれの)		
(形容詞) 精巧的 (精巧な)		
(動詞) 鑄造的 (鑄造する)		
(数量詞) 一座 (一つの)		
(偏正連語) 精心制作的 (心をこめてつくった)	}	塑像 (塑像)
(並列連語) 他和她的 (かれと彼女の)		
(動賓連語) 鍍金的 (金メッキした)		
(主述連語) 大家創作的 (みなさんが創作した)		
(補充連語) 雕刻得精美的 (精緻で美しく彫刻された)		

c. 定語の後に“的”を添えること

各種類の連語と動詞及び多音節、人称代名詞が定語となる場合に、一般に“的”を添えなくてはならない。

数量詞、指示代名詞“这”(この)、“那”(その)、一音節の形容詞などが定語となる場合に“的”を添えない。

3. 定語と中心語の意義上の関係

a. 修飾関係：偉大的人民 (偉大な人民) (性状を表わす)

呢子制服 (ラシャの制服) (品質を表わす)

b. 限定関係：大家的意見 (みなさんの意見) (所属を表わす)

北京的街道 (北京の通り) (場合を表わす)

1972年的地震 (1972年の地震) (時間を表わす)

全部財産 (すべての財産) (範囲を表わす)

两张桌子 (二つのテーブル) (数量を表わす)

参 考 文 献

「新明解国語辞典」	三省堂
「简明漢日辞典」	商務印書館
「日漢辞典」	商務印書館
「漢語知識」	人民教育出版社